第７回　都城制研究集会「古代都城と寺社」

日時：2013年2月16日（土）10:00～18:00
会場：奈良女子大学　文学系Ｎ棟202教室

参加費無料・申込み不要です

プログラム

10:00～10:10　開会のあいさつ
10:10～10:40　「古代都城と寺社の関係－問題提起として－」舘野和己（奈良女子大学）
10:40～11:15　「難波における古代寺院造営」谷﨑仁美（大阪文化財研究所）
11:15～11:50　「大津宮と寺院配置」葛野泰樹（(公財)滋賀県文化財保護協会）
　　昼食
13:00～13:35　「平城京における大安寺」森下恵介（奈良市埋蔵文化財調査センター）
13:35～14:10　「平城京と寺院」中川由莉（奈良女子大学 博士研究員）
14:10～14:45　「長岡京と寺院」古閑正浩（大山崎町教育委員会）
　　休憩
14:55～15:30　「平安京と東西寺・常住寺」網伸也（京都市埋蔵文化財研究所）
15:30～16:05　「大宰府と寺社」松川博一（九州歴史資料館）
　　休憩
16:15～17:45　討論　司会：積山洋（大阪歴史博物館）
17:45～18:00　閉会のあいさつ

あらまし

律令制下では、中央政府の元に左右兵衛府・衛門府・左右衛士府などの軍事組織が置かれ、都城の警備にあたった。しかし都城を守るのは、物理的な武力のみではなかった。たとえば藤原京の左京には大官大寺が、そして右京には薬師寺が天皇・国家によって造営され、平城遷都にあたっても、この両寺はほぼその位置を踏襲して新都に移され、奈良の大安寺と薬師寺となった。このことに象徴されるように、国家は都城に寺院を造営し、いわゆる鎮護国家の仏教によって、都城そして国家の安寧を祈願した。国家は、都城とそこに基盤を置く天皇権力の安寧・永続を願うための宗教的装置を、準備したのである。

それならば、それらはいかにして成立し、いかなる様相・特徴を示し、またどのような変遷を辿ったのだろうか。こうした問題関心から、昨年度の都城制研究集会は「古代都城をめぐる信仰形態」と題して、中国や平泉も視野に入れながら、古代都城という場をめぐる信仰の諸形態を総体的に検討したところである。しかし１度のシンポジウムで、全てを明らかにすることは無理である。

そこで今年も同じ問題意識の上に立って、仏教信仰と神祇信仰に絞って検討を加えたい。但し、都城には基本的に神社は置かれなかったから、前者が議論の中心となる。そして昨年は十分に取り上げられなかった、各都城遺跡における発掘調査の成果を踏まえながら、議論を行っていきたい。具体的には、難波宮・大津宮・平城京・長岡京・平安京、それに大宰府を検討対象として、各都城・都市遺跡で調査にあたっておられる方々にご報告いただき、議論を深めていくこととしたい。

《問合せ先》
奈良女子大学古代学学術研究センター
〒630-8506　奈良市北魚屋東町
奈良女子大学コラボレーションセンター205号
TEL:0742-20-3307(タテノ)　FAX:0742-20-3779
E-mail:kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

主催：奈良女子大学古代学学術研究センター
共催：都城制研究会(「大阪上町台地の総合的研究－東アジア史における都市の誕生・成長・再生の一類型－」研究代表:脇田修)
科学研究費補助金「古代都城・都市をめぐる環境論」(研究代表：舘野和己）研究グループ